

第10回「資産運用の基礎（その3）「資産の分散投資」の大切さ！」

三菱UFJ信託銀行 菅谷 和宏

これまで「資産運用の基礎」として、「長期投資」で考えること、そして、少額ずつでも「つみたて投資（時間分散）」を行うメリットをご説明しましたが、今回は3つめのポイントとして「資産の分散投資」の大切さについてご説明します。

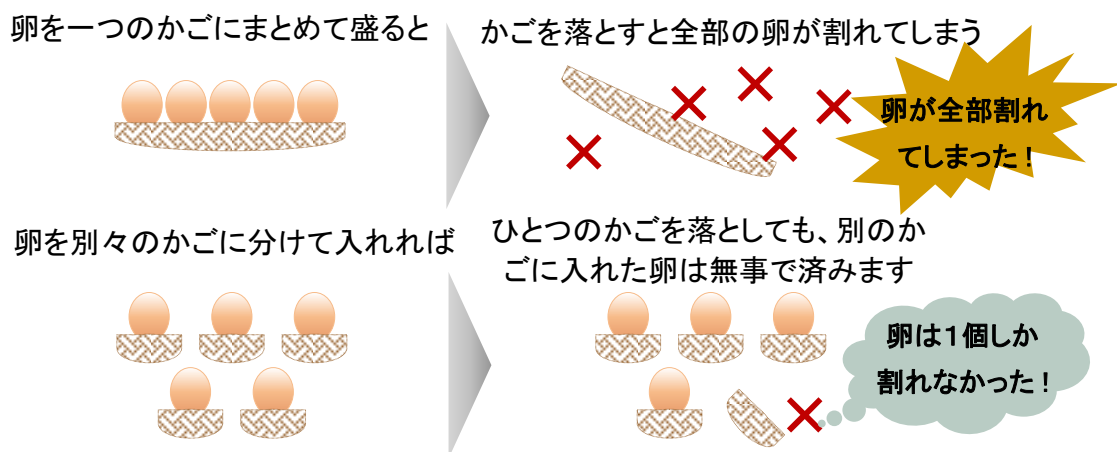
【資産運用の基礎-⑥】◆「分散投資」の大切さ！

リスクとは、「収益率のブレ幅」（予測できない不確実性）であることを前回ご説明しましたが、この「リスク」を小さくする方法が、これまで説明した「①長期投資」、「②つみたて投資」、そして「③分散投資」です。

「分散投資」とは、ひとつの金融商品で資産を運用するのではなく、経済環境の変化によって価格変動が異なる複数の金融商品で資産を運用することで、金融資産全体での「リスク」を減らすことです。

「分散投資」の重要性を説く有名な「ことわざ」として「ひとつのかごに全ての卵を入れるな！」というのがあります。これは、資産をひとつの金融商品だけに投資していると、値下がりした場合に大きな影響がありますが、値動きの異なる複数の金融商品に分散して投資していれば、そのうちのひとつが値下がりしても、他の金融商品が値上がりして、全体としてカバーできるというもので、これを「分散投資効果」と言います（図表1）。

（図表1）「分散投資」の大切さ！～「ひとつのかごに全ての卵を入れるな！」～



**【資産運用の基礎⑦】 ◆分散投資の方法～「金融商品分散」・「地域分散」・「業種分散」**

分散投資の方法としては、「株式」「債券」「投資信託」「預貯金」などの、「リスク」と「リターン」の異なる金融商品に分散投資する「a.金融商品分散」がありますが、これ以外にも、投資する対象国を分散する「b.地域分散」や、投資する業種を分散する「c.業種分散」などの方法もあります（図表2）。

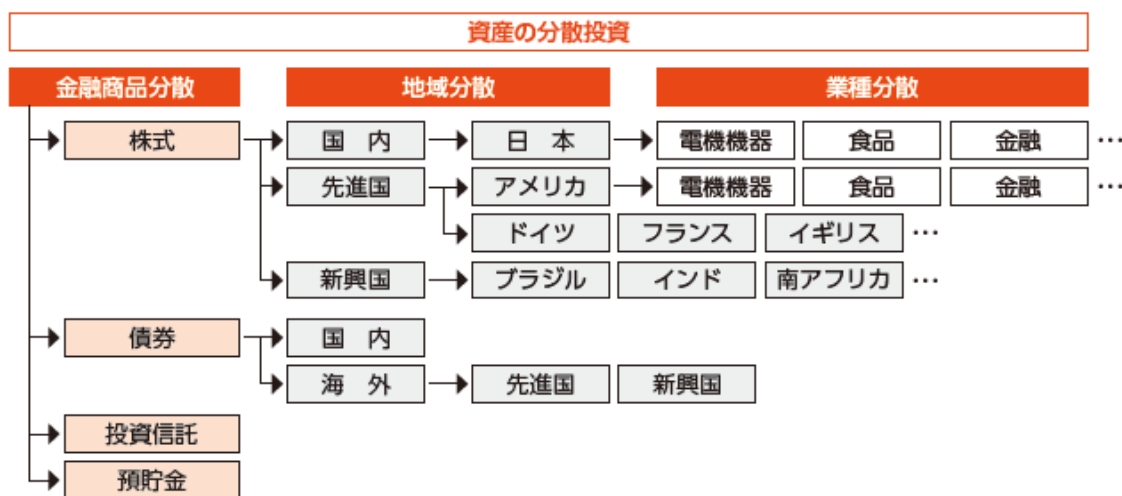
先進国の債券は、経済が安定しているため、リスクが相対的に小さく、小さいながらも安定したリターンが見込まれます。一方、新興国の債券や株式投資は、経済が拡大しており、高い経済成長を背景に高いリターンが見込まれますが、政治や証券市場の不安定性からリスクも相対的に高くなります。

業種で見ると、高度経済成長期では製造業の業績が高い傾向にありましたが、経済環境の変化により、近年ではIT関連企業等の業績が向上して、高い配当率などが考えられます。

なお、前回説明した「つみたて投資」による「ドルコスト平均法」は、時間を分散して投資する「時間分散」となります。

このように、分散投資は「リスク」を減らす効果があります。

(図表2) 「分散投資の方法」～「金融商品分散」・「地域分散」・「業種分散」



次回は、金融商品の種類とリスクとリターンの関係性についてご説明します。